

平成30年 6月 4日

関係各位 殿

長野県基本錬成大会実行委員会
委員長 倉石 秀章 [公印略]

第四回長野県剣道基本錬成大会（兼）脇本杯争奪剣道大会のご案内

謹啓、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より、長野県剣道連盟の諸行事に対し、多大なるご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、来る、7月7日（土）8日（日）に長野県剣道基本錬成大会及び講習会を下記により実施致します。講師には、剣道範士八段脇本三千雄先生をお招きしてございますので、是非ご参加下さいませようご案内申し上げます。なお、1日目には審判講習会・指導者交流稽古会を行いますので、多くの指導者のご参加をお願い申し上げます。別紙申込書に従って返信いただきたくお願い申し上げます。

記

- 1 主催 長野県剣道基本錬成大会 実行委員会
共催 一般財団法人 長野県剣道連盟
- 2 日程 平成30年 7月 7日（土） 会場：坂城町文化センター 体育館
受付：14：00～ 開始：14：30 終了17：00
対象：指導者及び一般参加者 内容：剣道講話・審判講習・指導稽古
平成30年 7月 8日（日） 会場：坂城町文化センター 体育館
「第四回長野県剣道基本錬成大会（兼）脇本杯争奪剣道大会」
受付：8：00～ 開始：9：00 終了15：30
内容：基本錬成判定試合・試合
- 3 講師 剣道範士八段 脇本 三千雄 先生
- 4 講習会及び大会参加費
1日目 指導者1名500円（参加人数に制限はありません）
2日目 1チーム5000円（申込み団体に所属する小学生で参加チーム数に制限はありません。）
※大会当日受付で納入すること。
※各チームより1名の帯同審判員をお願い致します。
- 5 申込み方法

6月25日（月）までに、長野県剣道連盟ホームページの申し込むフォームにて申込み下さい。

申込みが終了したら登録完了の連絡が届きますのでご確認お願い致します。

なお、駐車場に限りがございますので乗り合わせにてご来場くださいますようお願い致します。

長野県基本錬成大会実行委員会
事務局 町田 育哉

平成30年度 第4回長野県剣道基本錬成大会兼脇本杯争奪剣道大会実施要領

1. 競技規則

平成30年度全日本少年少女武道（剣道）錬成大会の試合実施要領及び、全日本剣道連盟の試合規則、審判規則及び細則、並びに本大会の申し合わせ事項にて行う。

2. 競技方法 予選リーグ・トーナメント 40秒間で基本判定試合及び、1分一本勝負にて行う。

決勝トーナメント 2分三本勝負にて行う。

3. チーム編成 小学生で、その団体に所属する者で、監督一名、選手五名以内とする。なお、選手の入替は自由とする

4. 勝敗

予選リーグ、および、トーナメントは、基本判定試合・一分一本勝負での総勝者数・総本数の順で決定し、双方が同数の場合は、基本判定試合で勝利したチームを勝者とする。

決勝トーナメントより勝敗の決しない場合は引き分けとする。なお、リーグ内で順位が決しない場合、および、決勝トーナメントにて勝者数・取得本数が同数で勝敗決まらない場合は、任意の選手による代表者戦を行う。代表者戦は1本勝負とし時間は区切らず勝負の決するまで行う。

5. 基本判定試合の判定基準

(1) 正しい礼法・着装等ができていないか。

(2) 充実した氣勢で大きく正しく、気剣体の一致で打っているか。

(3) 繰り返し (ア) 竹刀の振り方は正しいか。

(イ) 足の運びは正しいか。(退き足が歩み足にならないか)

(ウ) 左右面を打つ角度が約45度になっているか。(元立ちは左右面を打たせず竹刀で受ける)

(エ) [正面打ち] のとき一足一刀の間合いから打っているか。

(オ) 竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打っているか。

(カ) [左右面打ち] のとき左こぶしが正中線を通り相手の見える所まであがっているか。

(キ) [正面打ち] のとき両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みぞおち)に納まっているか。

(ク) 最後まで気合と体勢が崩れていないか。

(4) 打ち込み稽古 (ア) 足さばきが正しいか。

(イ) 技に適した足さばきが出来ているか。

(ウ) 間合い取りが適切か。

(エ) 技が正確(気剣体一致)であるか。

(オ) 最後まで気合と体勢が崩れていないか。

(カ) 残心がなされているか。

6. 試合審判について

(1) 基本判定は、旗を持ち替えずに主審が何対何勝負ありと宣告してください。

(2) 基本判定から一本勝負に移行するときの動き方に注意してください。

(3) 有効打突を確実に判定してください。特に打突の好機を捉えている技については、積極的に取るようにしてください。

(4) 反則は規則に則って適切に取ってください。

(5) 場外付近にてもつれている場合は止めをかけて元に戻してください。

(6) 鏝競り合いについては、技を出そうとしているかそうでないかを早目に判断をして別れをかけるか、反則を取るようになしてください。

(7) 試合が活性化するような審判、判定をするようにしてください。

7. その他

(1) 竹刀の検査は行いませんが、各監督は選手の竹刀点検を試合ごとに十分行ってください。

(2) 各チームの監督は、試合終了後結果をよく確認してください。掲示はしませんのでよろしくお願いいたします。

平成30年度全日本少年少女武道（剣道）錬成大会 試合実施要領

1. 参加チームを大会本部において抽選により、7月21日（土）、22日（日）のいずれかに指定する。
2. 試合は指定した期日の参加チームを16試合場（8ブロック）に分け、各試合場の1位がブロック決勝を行い、優秀賞（1）、優良賞（1）、敢闘賞（2）をブロックごとに決定する。
3. 審判員は1試合につき3名とする。
4. 選手の竹刀の長さは、111cm（約3.6尺）以下とする。
5. 大会内容

(1) 各試合場ベスト8進出までは下記の基本判定試合と1本勝負の2試合を行う。

(7) 試合内容 ① 切り返し、打ち込み稽古 ② 1本勝負

(4) 基本判定試合内容の詳細

監督が元立ちで、主審の合図により、先鋒の選手より下記の基本を続けて行う。

切り返し……正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち、以上2回繰り返す。『剣道指導要領』参照（全日本剣道連盟発行）

打ち込み稽古……指導者（元立ち）が与える打突の機会をとらえて打ち込んで、打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。したがって、充実した気力で遠間から大技で、正しく・間合・姿勢などに留意し基本技・連続技・体当たり・引き技などを繰り返し、打突させる。『剣道指導要領』参照（全日本剣道連盟発行）

○時間は切り返し・打ち込み稽古を含み40秒とする（各コートの時計係が計時を行う）。

○元立ちの竹刀の長さも選手と同じ111cm（約3.6尺）以下を使用することが望ましい。

○切り返し終了後、引き続き打ち込み稽古に入る（元に戻らない）。

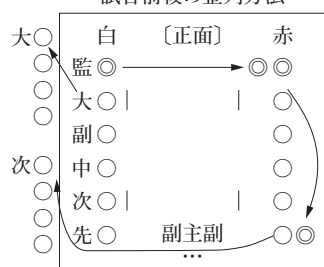
○必ず監督が元立ちを行うこと。

(7) 基本判定試合及び審判要領

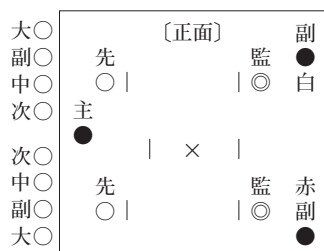
(a) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、監督・選手全員が面、小手をつけ竹刀を持って行う。

(b) 相互の礼及び試合の隊形は、試合場により下記のとおりとする。

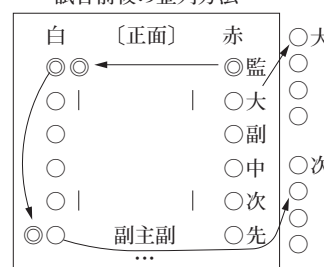
1・3・5・7・9・11・13・15 試合場の選手配置図
試合前後の整列方法



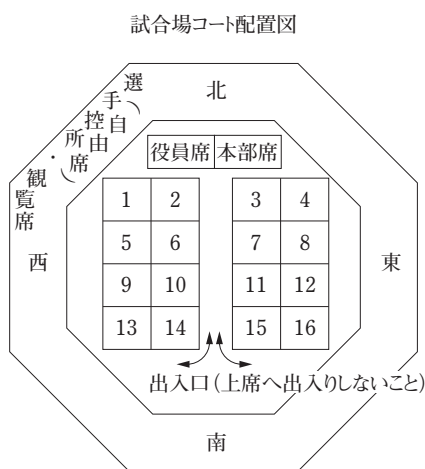
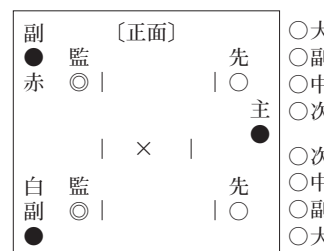
試合中の隊形



2・4・6・8・10・12・14・16 試合場の選手配置図
試合前後の整列方法



試合中の隊形



(c) 試合は、監督及び選手は立合の位置で立札をした後、開始位置にて先鋒より蹲踞で待機し、主審の「始め」の宣告により40秒間で切り返し、打ち込み稽古（元に戻らない）を続けて行う。

- (d)主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、判定を待つ。
- (e)勝敗は切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする（判定基準は下記のとおりとする）。
- (f)審判員は主審の「判定」の宣告で勝旗（赤・白）を上げる。主審は勝旗を調べ、「何対何、赤（白）の勝ち」と宣告する（引き分けは認めない）。

〔注：主審赤旗（白旗）、副審2名白旗（赤旗）の場合であっても、主審は旗を持ち替えずに宣告を行う〕

(イ) 試合要領と勝者の決定方法

- (a)試合は基本判定試合と1本勝負を先鋒→大将の順に引き続いて行う。
- (b)1本勝負の試合時間は1分とし、勝敗の決しないときは引き分けとする。
- (c)勝者の決定は、基本判定試合と1本勝負の勝者数、総本数の順により決定する。同数・同本数の際は、基本判定試合で勝ったチームを勝ちとする（1本勝負での勝ち本数は1本とする）。

(例) 勝者数・総本数同数でB道場が勝ちの場合（基本判定試合勝ちチームより）

団体名 A道場	監督 伊藤	先鋒 鈴木	次鋒 高橋	中堅 渡辺	副将 加藤	大将 田中	基本判定試合		1本勝負	総本数 勝者数	勝敗
							本数 勝者数	本数 勝者数			
基本判定試合		1	2	1	1	1	6	3	9	×(負)	
1本勝負		⊖	⊗	⊗			1	3	4		
1本勝負					×	×	9	0	9	○(勝)	
基本判定試合		2	1	2	2	2	4	0	4		
団体名 B道場	監督 吉田	先鋒 斉藤	次鋒 中村	中堅 山本	副将 小林	大将 佐藤					

(例) A道場が勝ちの場合（総本数より）

団体名 A道場	監督 伊藤	先鋒 鈴木	次鋒 高橋	中堅 渡辺	副将 加藤	大将 田中	基本判定試合		1本勝負	総本数 勝者数	勝敗
							本数 勝者数	本数 勝者数			
基本判定試合		1	2	3	1	1	8	3	11	○(勝)	
1本勝負			⊗	⊗		⊖	2	3	5		
1本勝負		⊖			⊗		7	2	9	×(負)	
基本判定試合		2	1	0	2	2	3	2	5		
団体名 B道場	監督 吉田	先鋒 斉藤	次鋒 中村	中堅 山本	副将 小林	大将 佐藤					

- (d)各試合場ともベスト8より3本勝負とし、勝敗を決する。
- (e)相手チームが5名に満たない場合でも、相手のいない選手は基本判定試合を1名で行い、審判員は判定する。
- (f)当該チームが、赤・白どちらになるかは、トーナメント戦組み合わせの若い番号を赤とする。

(2) 各試合場ともベスト8より、試合は下記により行う。

- (ア) 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則に準ずる。
- (イ) 試合開始の際の相互の礼は、選手全員が面、小手をつけ、竹刀を持って行う。
- (ウ) 個人の試合は3本勝負を原則とし、試合時間は2分とする。勝敗は、試合時間内に2本先取した者を勝ちとする。ただし、一方が1本を取り、そのまま試合時間が終了したときは、この者を勝ちとする。
- (エ) チームの勝敗は、勝者数、総本数により決める。同数の場合は代表者戦を行い、選手は任意とする。代表者戦は1本勝負とし、試合時間は区切らず、勝敗の決するまで行う。
- (オ) 倒れた者に対する打突は有効としない。

6. 基本判定試合判定基準

(1) 総合評価の着眼点

- (ア) ただ速く動作ができていではなく、正しく、リズムや拍子をもって動作（技）をしているかを見る。
 - ① 剣道具・剣道着・袴の着装ができているか。
 - ② 正しい蹲踞ができているか。
 - ③ 竹刀の持ち方は正しいか。
 - ④ しっかりと手首（刃筋）を返し、伸び伸びと大きな切り返しができるか。
 - ⑤ 切り返しや技を出すとき、左こぶしが左右に動いていないか。
 - ⑥ 応じ技を2本以上入れているか。
 - ⑦ その技は正しく動作しているか。
- (イ) 正しくひとつひとつ見るためには、下記のような留意点を観察する必要があるが、少なくとも(1)総合評価の着眼点を見て判断する。

(2) 切り返しの留意点

- (ア) 竹刀の振り方は正しいか。
- (イ) 足の運びは正しいか（退き足が歩み足にならないか）。
- (ウ) 左右面を打つ角度が、約45度になっているか。
- (エ) 「正面打ち」のとき、一足一刀の間合から打っているか。
- (オ) 竹刀の打突部で、打突部位を正しく打っているか（元立ちは左右面を必ず竹刀で受けること）。
- (カ) 「左右面打ち」のとき、左こぶしが正中線を通り相手の見えるところまで上がっているか。
- (キ) 「正面打ち」のとき、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心（みぞおち）に納まっているか。
- (ク) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。

(3) 打ち込み稽古の留意点

- (ア) 足さばきは正しいか。
- (イ) 技に適した足さばきができているか。
- (ウ) 間合取りが適切か。
- (エ) 技が正確（気剣体一致）であるか。
- (オ) 最後まで気合いと体勢が崩れないか。
- (カ) 残心がなされているか。

7. その他

- (1) 竹刀の検査は行わないが、各監督は選手の竹刀の点検を試合ごとに十分行うこと。特に、ビニールやセロテープを巻いた竹刀は使用させないこと。
- (2) 各チームの監督は、当該試合終了後、勝敗をよく確認すること。

以上